

平成29年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(年間) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生活指導の充実 ④情報発信の充実 ⑤健康管理 ⑥安全管理						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①学習指導の充実	アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試改革に向けて、アクティブ・ラーニング、ICTを利用した授業の実践方法について模索する。 [5教科による、年2回の研究授業及び、授業検討会を行う]	B	<ul style="list-style-type: none"> 5教科による年2回の研究授業が行われ、一歩前に進んだ印象。ただ、研究授業、検討会を行って終わりではなく、継続して普通の授業に生かせるようにしたい。また、早めに日程を決め、非常勤の先生方にも参加できるようにしたい。 ICTの環境を早く整えることが大事。 ICTの利用を模索している中で、実践にまでは至っていない。 授業でALを行うことで、生徒も普段とは違った授業を受けることによって、積極的に参加しているように思われる。 教科にもよるが、AL、ICTを模索しているのが現状。 ベテランの先生方の研究授業も行ってほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試改革に向けた取り組みは、今後も着実な実施をお願いします。また情報活用能力の育成や効率的な教育をするためには、ICT教育は不可欠であり、ICTの効果的な活用方法も含め、早期にICT環境が整備されるよう要望します。 ALを実践することで、自分で考え、自分から学ぶ力がつくと思うので、研究授業の回数を増やすなどALが定着していければよいと思います。
	学力分析と学習方法の考察	<ul style="list-style-type: none"> ベネッセの到達度テスト(基礎力診断テスト及びスタディサポート)を利用し、事前教材を使って学習量を増やす。事後の結果から学力の抜け漏れを確認しそれを補う指導をする。 河合塾・ベネッセの模擬試験を通して、志望校合格のための学力や学習内容を認識させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 到達度テストの実施及び分析報告会の実施等、先生方の理解も進んでいる。成績も向上しつつある。 事前教材をもっと有効に利用したい。 基礎力診断テストの実施前後の対応を、学校全体でマニュアル化したい。 基礎力診断テストは、「家庭学習をする」習慣を持たせるきっかけになっている。 一般入試で挑戦しようとする生徒を増やし、そのための指導体制を学校をあげてできるように早くしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習の習慣づけに関して、家では課題をやるだけの学習になってしまうので、放課後、苦手な科目、わからなかった箇所の復習などができる学習室(自習室)を設けていただければよいかなと思います。 礼法の順心・スポーツの順心に加え、学力向上もしてきていると外部にアピールできる校風にもっていききたい。 到達度テスト、模擬テストに効果が出てきていることは喜ばしいと思います。さらに活用に工夫を求めます。
②進路指導の充実	就職指導	<ul style="list-style-type: none"> 3年後の就職を意識させ、3年間を見通した指導計画を提示する。 職場見学や卒業生等による講話を通して、会社への理解を深め社会人になることへの意識高揚を図る。 徹底した面接指導及び基礎学力の充実を図り、希望する会社への内定を勝ち取る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 就職内定率100%達成。 就職を希望するほとんど全ての生徒が、入りたい会社に内定したのは3年の担任を中心としたチームワークがあったからである。ただ、試験が難しい会社を敬遠する傾向があり、就職に対する意識があまり高くないようにも感じた。 どんな会社があるのか等の情報は、1年生のうちから提供していく予定である。 面接練習など、3年部以外の先生方にも協力していただける体制がほしい。 2年生で取り組み始めた新聞記事の感想書きは、就職を意識させる良い機会になっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 素晴らしい就職状況は、先生方のきめ細かい指導の賜物だと思います。 希望する会社に合わせたきめ細やかな面接指導をはじめ、就職に対する心構えなど丁寧にご指導いただけたと思います。 今は売り手市場であるので、内定率100%も大事だが、こういう時こそ、「高み」に挑戦することが必要であると思う。 生徒の進路意識や望ましい職業観、勤労観の育成にもちからを入れてください。
	進学指導	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学&中堅以上私大推薦入試合格4名、一般入試合格4名、計8名を目指す。(センター試験受験科目得点率70%を目標として実力養成) 専門学校・短大・大学推薦AO入試志望者の出願・面接・事後指導に手をかける。 ガイダンス、進路講演、個別相談を有効に行い、よりハイレベルなキャリアに向けて学習意欲を育てる。 スコラなどでPDCA学習を身につけさせ、スタディサプリと受験対策講座で合格の学力を養成。 中学から大学受験を見据えた学習環境を整える。[補講・学力向上学習会・スタディサプリの実施] 	B	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学6名、私立大学47名、看護・医療系専門学校8名(3/8現在) 多種多様な進学希望者に対して、3年間を見通したサポート体制はできてきている。 大学進学専攻のクラスは、運動部の生徒の学習への取り組みが、クラスの雰囲気、進学への意識の向上へつながる。 進学実績を上げるためには、大学進学専攻の生徒、内進生を中心に勉強合宿の実施、特別補講実施など行うべきである。 スコラのPDCA学習は、すべてのクラスで行っても良いと思う。 女子高で、順心のような落ち着いた環境でこそ、進学に力を入れてほしいとの要望が中学にもある。期待に応えたい。 今年度の3年生の受験者の意識が高く、受験に向けての雰囲気がよかったと思う。 中学の学習会やスタディサプリは効果が出ている。また、土曜授業を学力向上につなげていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 運動部の生徒は限られた時間の中で、集中して学習することができるのですね。それがクラスの雰囲気になっていければ素晴らしいと思います。 進学に向け、意識が高まり、成果が出てきているように思います。 3年間のサポート体制に付け加えて、大学で何を学び、それを将来どのように活かすのかなど、大学に対する目的意識を明確にさせることも重要だと思います。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
③生活指導の充実	礼法教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 「your steps」に従い美しい所作を指導する。(椅子の掛け方、歩き方、ドアの開け方、お茶の入れ方など) 会食指導は礼法にかなった食事作法を実践する。 会釈・挨拶の励行をし、場に応じた挨拶の指導をする。 「授業をする上での留意すべき事項」に従い、礼法指導に即した授業実践をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 節目節目において、人としての基本である礼法を意識させる教育が行われていることは良いと思う。 会食指導が昼休みの会合と重なることが多い。回数を減らし、時間を長くするなど工夫がほしい。 周囲の高校生と比較すれば良いかもしれないが、校内では乱暴な言葉遣いや行動が目につく。周囲を見て、今自分がどのような振る舞いをすべきか、判断力が求められる。 日常の会食指導、校長室会食ともきちんとできた。様々な生活場面でも指導を徹底できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、礼法を意識させられる機会をもてることは幸せだと思う。どんな所へ行っても、どんな人に会っても、きっと自信を持って対応できるからです。限られた時間の中で、身に付くまでの指導は大変でしょうが、是非続けていって下さい。 ぶれない女子教育をお願いします。 他校の高校生の比べて、とても礼儀正しい印象です。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 「情報収集→まとめ→分析→報告」を繰り返し、教師相互の共通理解を図り、指導にあたる。 一報を通して迅速な情報共有に努める。 週番活動を通して校風高揚に貢献する姿勢を指導する。 校風向上習慣、マナーアップキャンペーンで清潔な身なりを指導する。 清掃活動を通して環境美化に努め、施設を丁寧に使用することを指導する。 教室内の整理整頓を通して私物の管理を正しく行い、清潔な生活感覚を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一報を通して情報共有していることで、統一感のある生徒指導ができてきていると思う。 週番や清掃など他学年との交流があることで、本来の目的以外のコミュニケーション力や協調性など、社会力の向上になっていると思う。 清掃のやり方を最初にきちんと教えることが大切。やり方を丁寧にしつこく、その時々に応じて教えていくことで、しっかりした清掃ができるようになる。 日頃から、教室内の整理整頓、公共物を大切に扱うことを意識させている。 SNSに関連した問題行動が増えているように思われる。指導の徹底が必要か。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な校風検査の実施で、生徒の清潔な身なりが保たれていると思います。 学校内もいつもきれいで気持ちよく感じます。 SNSに関連した諸問題については、保護者・生徒・学校がともにそれぞれに、情報モラルについて考える機会が必要だと感じます。 一報を聞いて、すぐに情報共有できる体制を心強く思います。
④情報発信の充実	学年通信 学級通信	<ul style="list-style-type: none"> 通信を、学年主任・担任と保護者とのコミュニケーションの一つと捉え、学年・学級の状況を伝える。 〔月1回発行〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高3学年は、計画通り月1回学年・学級通信を配布できている。 他学年は、不定期になっている。 学校の様子がわかる通信は、保護者への学校からの日常のメッセージだと思います。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 担任からの通信は保護者には心強く感じます。継続してお願いします。 いつも拝見させていただいています。校内行事などもわかってよかったです。
	オープン キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスは年2回実施し、担任とのコミュニケーションを図る機会とするなど学校理解の促進に努める。 〔参加率70%達成をめざす〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の参加率は56%。26年67%、27年61%と6割以上をキープしていたが、28年度からは5割台と低迷している。保護者からは、毎年この機会を楽しみにしている」「普段の様子が見れて良い」などの感想を多くいただいている。来校することで保護者にプラスになるような情報や企画をもっと考えていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が忙しすぎるような気がします。 限られた日程の中で、多彩な取り組みは困難化もしれませんが、一般授業の公開だけでなく、保護者が高い関心を示す企画（例えばICTを活用したモデル授業など）も検討が必要かと思います。 年1回でもよいと思います。
	ホーム ページ の活用	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信のタイムリー性と実用性の向上 学年・分掌・教科内での原稿作成者決定（行事、検定等） 各行事の更新担当を明記 部活動記録の月毎の更新 	A	<ul style="list-style-type: none"> 更新がタイムリーで、とても良いと思う。 ニュースのアップが速くなり、充実している。 今年から美デ科のFaceBookを開設。タイムリーな情報発信ができています。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校に関しての情報が新鮮に感じ、広報活動にも大きく役立っているのではないのでしょうか。 美デ科だけでなく、調理栄養科も多彩な情報発信が可能だと思います。 タイムリーな情報発信、何よりです。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
⑤健康管理	保健管理 保健教育 健康相談	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の健康観察、定期健康診断の実施 ・校内の救急体制を整備し、家庭との連携を密にする。 ・生徒の成長や実態に即した健康教育を実施する。 ・健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。その際、必要に応じ、スクールカウンセラーとの連携を密にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーからのフィードバックが大変丁寧であり、生徒への指導方針が立てやすい。健康相談に対しても、養護教諭が相談のしやすい雰囲気づくりをしている。 ・カード導入で生徒の様子が把握できるので、家庭との連絡も取りやすくなった。 ・養護教諭からの情報は生徒指導においても大変役に立ち、有難い。 ・担任、養護教諭、カウンセラーの連携がよくとれている。 ・生徒がカウンセラーの話聞く機会があれば良いと思う。 ・「ほけんだより」を利用したクラス指導を考えても良いと思う。 ・保健室からでは見えてこない部分も多く感じた。担任、学年との連絡をさらに密にする必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康状態や精神状態を把握し、ケアサポートしていただけるのはありがたいです。 ・カウンセラーが上手く作用し、生徒指導と連携がとれている様子が見てとれる。 ・サッカー日本一に輝いた実績は、日常の健康管理がしっかりしていたことも大きいと思います。
⑥安全管理	避難訓練の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の避難訓練を年2回実施 〔7月―地震防災訓練〕 〔10月―火災防災訓練〕 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・静かですみやかな行動がとれていたと思うが、授業中の訓練など工夫が必要に思う。 ・大規模地震に遭遇した場合のシュミレーションをきちんとすべき。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ来るか分からない地震に備え、抜き打ち訓練をお願いします。 ・様々なパターンのシュミレーションを繰り返し行うことが重要だと考えます。
	職員防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関係の職員研修会を実施(7月) ・初期消火訓練、救急対策講習会などの実践的訓練を通し、職員の意識向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの講習会を2回実施でき、しっかりと理解できた。 ・職員の発災時における役割が徹底されているか、検証する必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDや心臓マッサージの講習会を生徒も受けられたらありがたいと思います。 ・必要に応じて、県からの情報に対応した防災マニュアルの見直しや生徒及び保護者への周知をお願いします。